

「のだ」 汉译管窥

——语法文章学的视角

鄭 高 咏

要 旨

日本語の文末表現である「のだ」の意味や機能を中国の日本語学習者が理解するのは難しく、正確な中国語に翻訳することも容易ではない。「のだ」に対応する中国語表現の研究は文法訳読方式に基づいた日文中訳の考察に留まるものが少なからずあった。しかし、その機能を理解するには文法論だけでは不十分であり、文章学や修辞学の観点を結合させた総合的な分析が必要である。長文においては、段落のまとめとして登場した「のだ」、筆者の主張を強調するために登場した「のだ」、課題提示に対する解答として登場した「のだ」、ないしは長文全体の統括として使われた「のだ」など、それぞれを解釈するにあたっては、前後の文や段落との接続関係、段落における「のだ」の働き、あるいは文章全体の文脈との関係性を十分に考察しなければならないと考える。本研究において、永野賢の文法論文章論を理論根拠として、21編の論説文における「のだ」文の中国語訳について、文法論的視点と文章論的視点の双方から考察を行った。その結果、「のだ」の中国語訳はある決まった構文や決まった語彙に限らず、多様多彩な形で中国語に再現されていることが分かった。語気の強弱に応じた語彙を使用しているほか、関連用語の組み合わせや、前後の文に移動して表現する越境訳法、同じ表現の繰り返しおよび修辞法上の工夫などによって、より相応しい中国語を表現しようとしていた。こうした中国語訳の研究は、「のだ」が持つ機能を理解する大きな啓示となるだろう。

キーワード：段落の接続関係，文の接続関係，「のだ」の機能，文脈から見た「のだ」文の理解，「のだ」文の中国語訳

1 先行研究及課題

1.1 「のだ」の意蕴与功能

日语句尾以「のだ」「のである」和「のです」结尾的句子统一称为「のだ」句，有关「のだ」的研究数不胜数，大致可分为两大类：一个是对「のだ」结构及表意的研究，一个是从对外日语教学角度的研究。

朝仓（2008）曾对「のだ」的结构及表意的历史研究有过较为系统的总结性论述。通过朝仓总结的有关「のだ」表意的先行研究，我们从中可以了解到各位语言学家的主张。三上认为「のだ」的表意包括持续、保证、一般性计划、催促、理由、结论、完了、过去的状态、习惯性的暗示以及顺序；久野认为「のだ」的表意是说话人对既成事实以及情况的说明、听话人对说话人已了解的事情进行的说明、非议（「のだ」+请求句、命令句）、说话人对现状的观察；纸谷认为「のだ」的表意是断定、疑问、推测、否定和接续；吉田认为在两句一文中是换言表述，在一句一文中的表意有自白、指点、强调、决心、命令、发现、再认识、确认、调整、客体化；小金丸（野田）认为，在表语气的句子里是强调、阐述观点，在局限于作用域表意的句子里是将句子与说话人说话时的情况相连在一起；卫东认为「のだ」的表意是解释性的答辩、回答。对原因理由的解释、命令、对持疑问及不满事情的反问、部分否定、对自身无法解决事情的一种情感；佐治认为「のだ」的表意是劝诱、义务、咏叹、疑问、解说性说明、说服、二重判断；田野村认为「のだ」表示事情的背景以及实情；花城认为「のだ」的表意是说明、判断、确认、前言、强调。

朝仓对日语教学中有关「のだ」的先行研究也进行了比较全面的总结和分析。朝仓认为具有代表性的研究是叶照子、田代ひとみ、山本忠行、今村和宏、花城可武等五位。叶照子（1999）从日语教学的角度归纳了日语教材中有关「のだ」的内容，并对日语习得者的相关病句进行了分析，指出了「のだ」在教学中出现混乱的要因。叶照子认为在日语初级教学中不应该首先教授「のだ」表示“强调”的用法，应该从其他表意性能入手，这样可以避免初学者对「のだ」的错误使用。田代ひとみ认为在指导日语写作时需要「のだ」的用法以及作用进行归纳整理，有必要明确提示「のだ」在文章中发挥的具体作用。田代ひとみ根据永野贤（1986）的客体表现—客体的事象叙述・主体的表现—主题立场的陈述・传递的表现—面向读者的意向传递这一分类方式对文章进行了分析。山本忠行分析指出了中级水平日语习得者作文中「のだ」误用的根本原因出自初级基础学习的弊端以及中级教材对「のだ」深入学习的欠缺，指出日语教学中应注意强调在没有话语前提以及没有连贯表意的前后文章时不需要使用「のだ」。

今村和宏的研究主要着眼于高级水平日语学习者如何理解论说文中句尾的「のだ」以及如何在写作中正确运用「のだ」,并整理出「のだ」的使用准则。花城可武通过采访问答方式对日语学习者「のだ」的使用情况进行了考察分析,认为教学中不应仅仅把教学重点放在「のだ」在单句中的使用,应该着眼于教授「のだ」在有连贯性话语中的正确使用。

除此以外,名嶋义直(2008)对「のだ」的文法表意和语用表意的差异作了如下总结:①采用语用论的观点可以叙述相关内容的实情,解释「のだ」句各种表意的依据所在,从而详细记述「のだ」的使用条件,明确「のだ」的具体表意和作用,语用论观点对考察「のだ」具体表意起到了积极作用。②从语用论的角度明确「のだ」的具体表意,亦有助于「のだ」文法论的研究。③将文法论和语用论的研究有效结合分离,可以网罗「のだ」在不同形态以及多种微妙语感的具体表意。④在考察句子的表意时采用语用论的观点十分重要,特别是考察「のだ」这类不仅语法表意抽象,而且在语用论中持有丰富表意的语言形式时,无法排除从语用论角度的考察分析。

戴宝玉(2020)有关日语教学中「のだ」的研究成果也是十分值得关注的,他在对大量例句调查的基础上对「のだ」的用法进行了总结。他主张应该根据「のだ」句与前文之间的具体关系并同时考虑与非「のだ」句的关系,将其分为“有直接关联的「のだ」句”和“有间接关系的「のだ」句”,其中“有直接关联的「のだ」句”里包括“推理补充”和“关联补充”,“有间接关系的「のだ」句”里包括主张·强调、疑问·追问、指教·表白、命令·提醒、理由·说明、发现·赞美、引言·后记等14种。他认为,“有直接关联的「のだ」句”中表示“推理”和“换言”的句子以及“有间接关系的「のだ」句”中表示“说明”“理由”的句子都属于较明显的“先行句指向型”,其他“有间接关系的「のだ」句”中表示“发现”“疑问”“追问”“赞美”等属于与眼前情况或者前文有关的句子,称之为“中间型”,而“有间接关系的「のだ」句”里“后记”“主张”“强调”“指教”“表白”“命令”“提醒”“前言”一类的属于仅限于该句使用的“该句限定型”。

1.2 有关「のだ」表意的日汉对照研究

迄今为止有关「のだ」日汉对照研究中最多的的是与“是……的”或者“的”、“是……(的)”的对照研究,最早可追溯到1975年大河内康宪发表的「“是”のムード特性」¹⁾。而后,1997年王亚新的「日本語の「のだ」と中国語の「是……(的)」について」²⁾,1980年杉村博文的「「の」「のだ」と「是」「是……的」」³⁾以及1982年的「「是……的」——中国語の「のだ」の文」⁴⁾,2003年井上优发表的「「のだ」文と“的”構文」⁵⁾以及2012年刘洋的「論述文における“(是)……的”構文と「ノダ」文の機能」⁶⁾等等,数不胜数。不过,大部分有关「のだ」的论文基本都是围绕「のだ」与“是……的”或者“是”“的”的对照研究。

此外,范碧琳(2015)曾在其博士论文「文末の「のだ」の意味に関する認知言語学的・

語用論的研究一文末の「ものだ」との対照を中心に」の第6章中对日语「のだ」与汉语表意进行过论述，对中日语料库中11篇小说中提取出来的3256例「のだ」句的汉语译文进行了调查统计，并根据贺阳（1993）汉语文字表达中的7种识别语气的形式标记，分析探讨了与「のだ」相对应的汉语译文。该氏还分析了中国日语教材中「のだ」教授法的不足之处，并提出了相关教学建议。她认为，在初级日语教学中应该从单一整句和表意相同的复数分离句的双方教授「のだ」的用法，向日语习得者提示「のだ」使用时的具体文脉和语境。

新田小雨子（2013）从句法角度论述了在原因从句中，表意焦点上日汉两种语言表达形式以及焦点标记位置的异同。她的研究也十分值得关注。新田在第4章节中多次提到「のだ」的问题，并用以下例句进行了分析。

「探偵でないから、正直でいいと云うのだよ。」“正因为你不是密探，我才说你坦率得招人喜欢。”⁷⁾

新田指出，因为句尾使用了「のだ」，所以表意焦点由「正直でいいと云うのだよ」转移到表原因的从句「探偵でないから」的部分。但是，汉语和日语的焦点表现方式不同，汉语使用句法和词语来显示表示原因分句的聚焦点。也就是说，例句汉语译文中的“正”直接作用于原因分句，“才”虽然位置于主要表意分句中，但却起到了间接突出原因分句的作用⁸⁾。新田认为，汉语原因从句有的依靠词语表达，所以「のだ」句不仅仅与“是……的”相对应，特别是将那些由于主分句中使用了「のだ」而使表意焦点转移到从句的那些句子翻译成汉语时，大部分使用的都是具有提示意义的词语标记。在本章节的最后，新田总结如下：日语的焦点标记是固定的，它的特点是以句法来表达叙述焦点；而汉语的焦点表达形式大多是用词语，焦点标记可放在原因分句中，也可放在结果分句中，而且焦点标记的使用不局限于一个词语。

1.3 启示与课题

庵（2013）在论述「のだ」教学方法时指出，「のだ」无论是口语还是写作，其使用频率都比较高，从日本语学角度的研究甚多，但日语习得者能够实践应用的却较少。他再次提醒关注三山1953年的有关研究，引用了三山研究中的有关例文（1953: 241）：

寺田は一代（女の名前）が死んでまもなく史学雑誌の編輯を(a)やめさせられた。看病に追われて怠けていた上、一代が死んだ当座ぼかんとして半月も編輯所へ顔を(b)見せなかったのだ。寺田は又旧師に泣きついて、美術雑誌の編輯の口を世話して(c)貰った。編輯員の二人までが折から始まった事変に招集されて、欠員が(d)あったのだ。

文中下划线部分表示事情的顺时进行，虚线表示逆时的即时说明。按照事物展开的时间顺序排列为：b → a → d → c。由此，庵明确指出：「のだ」的很多句子都是对前文的解释，不

可能单独存在，一般都是与前文持有某种关系的。他再次强调了「のだ」的「関連づけ」（间接关系）的机能。庵在2021年进一步明确指出「テキスト的には、「のだ」は、「のだ」文が「文脈」と関連を持っていることを明示する機能を持っている」⁹⁾（在文章中，「のだ」具有明确表示「のだ」句与上下文关系的功能）。庵的研究主要是从日语教学角度的研究，但明确指出了「のだ」在上下文中的作用，引导我们在研究「のだ」，特别是日语教学中需要关注「のだ」与上下文的关系。

俵山雄司（2014）在「日本語の談話終結表現の研究」的论文中也谈到了「のだ」，其研究也十分值得关注。在他分析的许多「のだ」句中例举了如下例文¹⁰⁾。

38. 陸上の動物の場合、体の水分が失われる大きな要因としては、呼吸・発汗・排せつの三つがある。39. だが、海洋では水蒸気が比較的多く、湿度が非常に高いので、呼吸によって失われる水分の量はきわめて少ない。40. また、クジラには汗腺がないため、汗によって水分が失われることはない。41. したがって、クジラの場合、貴重な水分は主に排せつによって失われることになる。42. これはもったいない話のように思えるけれども、尿を出すことは、同時に体内の余分な塩分を、老廃物といっしょに排出することになっているのである。

俵山指出，文章由句41提出了「なぜ貴重な水分を排出してしまうのか」这样一个疑问，这个疑问与上文39句和40句的主张不同，表意对立，所以句41提出疑问，句42解答疑问。

俵山的研究不仅涉及到了与「のだ」句衔接的前后句子，而且还关注到「のだ」句42与前三个句子的关系。由此也提醒我们在翻译「のだ」句时不能仅关注「のだ」句本身，也不能把视线仅停留在与「のだ」句邻接的上下文，还要注意关注整个文脉中「のだ」句的表意机能。

石出靖雄（2016）也指出，「のだ」句不仅具有语法意义上的主题，而且在文章中与其他句子也有某种间接的关系。他还指出，「前文との関連は文法の問題ではないといえる」（与先行句的关系可以说不是语法的问题）。

由此，我们可以确认，并不仅仅是一个语法学家指出了「のだ」语法领域研究的局限性。提醒我们在翻译「のだ」句时要考虑它在整个段落及文章脉络中的作用。

2. 「のだ」句的汉语翻译

对语法中的「のだ」及「のだ」句，以至日语教学中「のだ」的教授方法都有过大量的研究，一些研究也关注到「のだ」句已超越了语法研究范畴，涉及到话语研究，需要将单项的句法与文章整体的文脉相结合才能客观判断「のだ」的具体机能。将日文翻译成汉语的时候更是

如此，我们面对的不仅仅是一个句子或者一个段落，而是一个具有连贯表意的一部作品。不仅是因为句①所以句②，还会出现因为句①所以句⑤的理论推理，仅仅理解「のだ」的语法意义，忽视它在前后文、在前后段落中以及整个文章中的作用，就无法将原作的表意准确地用汉语表达出来，有时还会产生误译。那么，「のだ」句中的「のだ」到底在什么情况下不用翻译，什么时候需要翻译，翻译的时候怎么翻译，各种译文的准确度又如何判定，这些问题都是尚未解决的课题。笔者认为局限于语法束缚的译文是不全面的，而永野贤的语法文章学恰好为我们提供了良好的解决问题的理论依据。

2.1 语法文章学理论中的「のだ」

永野贤先生1954年在《学校文法文章论》（朝仓书店）第二章中针对文章、文脉的概念作过这样的阐述：“文章是句子的积累，但不是单纯的句子组合。以表达而言，表达者先表达第一句，而后承上句再表达第二句，接着表达第三句。文章就是如此由时间性、线条形的累加连续而形成的表达流线。理解的过程也是一样。理解者首先理解第一句，根据上一句的内容理解下一句，再理解第三句，如此循序渐进。”“要使文章成立，在句与句的衔接中，整体意思必须相互关联，文脉必须统一。”“所谓文脉就是句子与句子在排列过程中所形成的意义上的关系，即句子与句子之间的连接关系”。他认为，文章是由句子到句子、段落到段落的连接而成立的。因此，作为语法学范畴内的文章学有必要探讨其连接展开的方式。这就是永野贤“连接论”理论的出发点。1986年永野贤以其大作《文章论总说》（朝仓书店）最终完成了对语法文章学理论框架构建的大任，推动日本国语教育界继六、七十年代文章学热潮后再次掀起了第二次文章学的研究热潮。永野贤的语法文章学主要由以下三个理论构成：

- ① 连接论：追寻文脉展开的轨迹。
- ② 连锁论：把握文章整体结构。
 - ・主语的连锁
 - ・陈述的连锁
 - ・主要语句的连锁

- ③ 统括论：确认文章的统一性及完整性。

其中连接论着眼于分析句与句、段与段、章节与章节间的连接关系，分为展开型、反对型、累加型、同格型、补充型、对比型、转换型、飞石型和积石型九类。永野将句与句之间的连接关系按照语言形式分为七种，虽然「のだ」句类出现在“对前面内容的补充说明”的“补充型”中，但是在具体分析句与句关系时也出现在“同格型”和“展开型”中，永野对「のだ」用法的解释是多种的¹¹⁾。

「のだ」属于句尾的陈述部分，日语句尾的陈述表现可以说是日语的一大特点。永野（1986）在阐明文章结构的陈述连锁机能时多次提到「のだ」。永野将句尾陈述部分的辞的功能

分为叙述辞（再细分为关系辞和统一辞）、述定辞和传达辞，同时作为观察实际文章的方法，将其分为客体事象的叙述、主体立场的陈述和对读者的唤起。在永野总结的有关辞分类的语例表中「のだ」类既出现在述定辞和主体立场陈述中，也出现在传达辞和面向读者唤起的分类中，由此可以了解到文章中「のだ」使用机能的复杂化。永野指出：“「のだ」类的句子，根据文脉和脉络的不同，它有‘说明、强调、确认、回想、感叹、总结’等各种各样的表意和用法”¹²⁾。永野从语法文章学角度对以下例句进行的分析也是非常值得关注的。

①彼等は夜を徹して踊り狂ったのだった。

②彼等は夜を徹して踊り狂ったのだ。

③彼等は夜を徹して踊り狂うのだった。

④彼等は夜を徹して踊り狂うのだ。¹³⁾

句①「踊り狂った」的「た」是客体事实叙述的统一辞，而句尾「のだった」的「た」是基于主体立场情况下的确认，是述定辞。这种表达效果是，将过去的事实作为过去的事实而强调与确认。句②的「狂ったのだ」的「た」和「のだ」放在一起表示对过去事实的强调。句③的「のだった」是对事实的回忆，确认自己的回想记忆。句④的「のだ」是根据现状确认事实，并将其作为一个永恒的事实进行说明。

永野贤从统括论的角度论述文章结构时也谈到了「のだ」问题。他说，段落或者文章最后的「のだ」「のである」具有统括整个段落以及整个文章的作用；即使出现在段落或者文章中间的「のだ」「のである」，也有多数与其他含有「の」的辞相呼应，发挥更强的统括机能，而且在文章统括论中占有十分重要的地位。

2.2 实际调查与检验

笔者选用了2004年由株式会社サンマーク出版发行的稻盛和夫的『生き方』的日文原著和2013年由中国的东方出版社出版的中文译本《活法》（译者：曹岫云）作为考察资料。该书不仅畅销于日本，而且被翻译成多种文字，畅销于14个国家，仅中国国内销售量就超过300万册。原著中使用「のだ」的频率较高，中文译文的精确度极高，为本课题的研究提供了客观准确的调查材料。笔者对该书中序言及第一章的21篇文章里出现的所有「のだ」句，从语法文章学的角度逐一进行了分析。每一句「のだ」的使用都是“事出有因”，大部分译文都需要根据前后文或者整个文脉进行推敲才能准确有效地再现「のだ」的具体表意，其译法也是多种多样，不仅局限于某一个词语和句法，甚至超越所归属句，所以相关统计数据也需要放在整篇文章中根据各个「のだ」表意的具体情况进行说明。由于篇幅有限，仅举具有代表性的3篇文章作为说明典例。

2.3 対典型例文的分析解釋

由于篇幅关系，仅转载日文原文，相关「のだ」句的中文译文在分析解释中具体说明。
文章例 1¹⁴⁾

「魂を磨いていくことが、この世を生きる意味」

①①私たち人間が生きている意味、人生の目的はどこにあるのでしょうか。②もっとも根源的ともいえるその問いかけに、私はやはり真正面から、それは心を高めること、魂を磨くことにあると答えたいのです¹⁵⁾。

②③生きている間は欲に迷い、惑うのが、人間という生き物の性です。④ほうっておけば、私たちは際限なく財産や地位や名誉を欲しがり、快樂におぼれかねない存在です。

③⑤なるほど、生きているかぎり衣食が足りていなくてはなりませんし、不自由なく暮らしていけるだけのお金も必要です。⑥立身出世を望むことも生きるエネルギーとなるから、いちがいに否定すべきものでもないでしょう。

④⑦しかし、そういうものは現世限りで、いくらたくさんため込んでも、どれ一つとしてあの世へ持ち越すことはできません。⑧この世のことはこの世限りでいったん清算しなくてはならない。

⑤⑨そのなかでたった一つ滅びないものがあるとすれば、それは、「魂」というものではないのでしょうか。⑩死を迎えるときには、現世でつくり上げた地位も名誉も財産もすべて脱ぎ捨て、魂だけ携えて新しい旅立ちをしなくてはならないのです。

⑥⑪ですから、「この世へ何をしにきたのか」と問われたら、私は迷いもてらいもなく、生まれたときより少しでもましな人間になる、すなわちわずかなりとも美しく崇高な魂をもって死んでいくためだと答えます。

⑦⑫俗世間に生き、さまざまな苦楽を味わい、幸不幸の波に洗われながらも、やがて息絶えるその日まで、倦まず弛まず一生懸命生きていく。⑬そのプロセスそのものを磨き砂として、おのれの人間性を高め、精神を修養し、この世にやってきたときよりも高い次元の魂をもってこの世を去っていく。⑭私はこのことより他に、人間が生きる目的はないと思うのです。

⑧⑮昨日よりましな今日であろう、今日よりよき明日であろうと、日々誠実に努める。⑯その弛まぬ作業、地道な営為、つつましき求道に、私たちが生きる目的や価値がたしかに存在しているのではないのでしょうか。

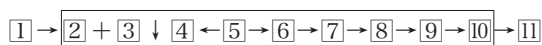
⑨⑰生きていくことは苦しいことのほうが多いものです。⑱ときに、なぜ自分だけがこんな苦勞をするのかと神や仏を恨みたくなることもあるでしょう。⑲しかしそのような苦しき世だからこそ、その苦は魂を磨くための試練だと考える必要があるのです。⑳労苦とは、おのれの人間性を鍛えるための絶好のチャンスなのです。

⑩㉑試練を「機会」としてとらえることができる人——そういう人こそ、限られた人生をほ

んとうに自分のものとして生きていけるのです。

⑪⑫現世とは心を高めるために与えられた期間であり、魂を磨くための修養の場である。⑬人間の生きる意味や人生の価値は心を高め、魂を錬磨することにある。⑭まずは、そういうことがいえるのではないのでしょうか。

段落与段落的关系如下图所示。



第一自然段的句①是论点「生きる意味」「人生の目的」的提示，句②是对句①的解答，作者提示了这篇文章所要论述内容的结论；第二自然段、第三自然段和第四自然段阐述的是「人間は生きている間、様々な欲に迷うが、例え欲が満たされても、あの世に持ち越すことはできず、死ぬときにすべて清算しなければならない」；第五自然段到第十自然段讲的是「死を迎えても滅びないものがあるとすれば、それは魂である。従って、生きている間は自分の人間性を高め精神を修養してより高い次元へと魂を磨き上げること、それが人間の生きる目的である。そうした毎日の弛まぬ作業に生きる価値が存在する。生きるというのは苦勞が多いが、苦勞は魂を磨く試練であり、チャンスである」；第十一自然段的句⑫到⑭是结论「試練のある現世は魂を磨く修養の場であり、魂を磨くことが人生の価値でもある」。文章共十一个自然段。笔者认为可以分为三大段落：第一个是第一自然段落，中心意思是「人生の目的は心を高めること、魂を磨くことにある」；第二个是自然段落二至十，中心意思是「人間は財産や地位や名誉を欲しがすが、死んでしまうと、それらは残らない。死を迎えるときには、魂だけ携えて旅立つのだから、生きている間はより高い次元の魂をもつよう努力しなければならない。人生は苦しいことが多く、その苦の魂を磨くための試練であり、人間性を鍛えるチャンスだと考えられる人こそ、限られた人生を自分のものとして生きていける」；第三个是自然段落第十一，中心意思是「試練のある現世は魂を磨く修養の場であり、魂を磨くことが人生の価値でもある」。

原文中共有六处使用了「のです」，第一段的句②「もっとも根源的ともいえるその問いかけに、私はやはり真正面から、それは心を高めること、魂を磨くことにあると答えたいのです」，第五段的句⑩「死を迎えるときには、現世でつくり上げた地位も名誉も財産もすべて脱ぎ捨て、魂だけ携えて新しい旅立ちをしなくてはならないのです」，第七段的句⑭「私はこのことより他に、人間が生きる目的はないと思うのです」，第九段的句⑯「しかしそのような苦しき世だからこそ、その苦は魂を磨くための試練だと考える必要があるのです」和句⑳「苦勞とは、おのれの人間性を鍛えるための絶好のチャンスなのです」，第十段的句㉑「試練を「機会」としてとらえることができる人——そういう人こそ、限られた人生をほん

とうに自分のものとして生きていけるのです」。原文句②的汉语译文分为了两句：“对于这个人生最基本的问题，我认为必须从正面回答。我的答案是：提升心性，磨练灵魂”。原文句⑩的译文是：“当死亡来临的时候，你在今世所创造的地位、名誉、财产就得统统放弃，只能带着你的‘灵魂’开始新的征程”。原文句⑭的译文是：“我认为这就是人生的目的，除此之外，人生再无别的目的”。原文句⑯的译文是：“但正是这些苦难才能磨炼我们的灵魂，提升我们的人格”。句⑳的译文是：“把苦难看作考验、看作机会，我们需要这样来思考问题”。句㉑的译文是：“能够把考验看作机会的人——只有这样的人，才能在有限的人生中让自己的生命绽放光彩”。

我们根据上下文以及整个文脉再来分析一下原文中出现的「のです」的具体作用。第一个「のです」在句②，这句是对前一句「疑問詞+のだ」的课题进行的解答，一般将这类「のだ」用法归纳为“说明”。但是，句②里使用了「私はやはり～」这一带有强调语气的词语，而且「私はやはり真正面から」出现在句子中间，并使用了顿号「私はやはり真正面から、」，与句尾的「～と答えたいのです」的「のです」相互呼应，增强了整个句子的强调语气，在解答性说明之上附加了强调性的表意。译者在翻译时添加了副词“必须”（「必ず～しなくてはならない」），译为：“我认为必须从正面回答”（「私は必ず正面から答えなくてはならないと思う」）。笔者认为这个处理十分妥当，准确再现了原文的表意，译文中添加的副词“必须”是根据上下文表意对「のです」的有效翻译处理。原文第二个「のです」出现在第五段的句⑩「死を迎えるときには、現世でつくり上げた地位も名誉も財産もすべて脱ぎ捨て、魂だけ携えて新しい旅立ちをしなくてはならないのです」。作者从第五段开始具体阐述有关「魂」，指出：“灵魂是人生中唯一的不灭之物”，以此引导本文论题「魂を磨いていくことが、この世を生きる意味」的中心论点。这是整篇文章的重点段落之一。句⑩的「のです」是强调，「～しなくてはならない」加上「のです」，加强了作者的「すべて脱ぎ捨てなければならない」「魂だけ携えて新しい旅立ちをしなくてはならない」表意力度。译者将此文译为：“当死亡来临的时候，你在今世所创造的地位、名誉、财产就得统统放弃，只能带着你的‘灵魂’开始新的征程”，把原文中仅出现一次的「～しなくてはならない」重复使用两次，同时还在助动词“得”的前面加了表强调的副词“就”（「ほかでもなく、絶対に」），准确再现了原文的强势表意。原文第三处出现「のです」的句子是第七段的句⑭「私はこのことより他に、人間が生きる目的はないと思うのです」，这句中的「のです」是强调，在「私は～と思う」的句尾使用了「のです」，强调作者论述中心「人間が生きる目的」的观点是「人間性を高め、高い次元の魂をもって去る」，别无其他选择。该段紧扣论点，反扣句③，是本文的重点段落之一。译者在译文中准确再现了原文的强调表意，添加了副词“就”，加强了表意语气，译为：“我认为这就是人生的目的，除此之外，人生再无别的目的”。原文第四处和第五处出现「のです」的句子是第九段的句⑱「しかしそのような苦しみ世だからこそ、その苦は魂を磨くための試練だと考える必要

があるのです」和句⑳「労苦とは、おのれの人間性を鍛えるための絶好のチャンスなのです」。句⑱前半句「しかしそのような苦しき世だからこそ、」是原因从句，笔者赞同新田小雨子的观点，因为后半句的句尾使用了「のです」，所以表意焦点转移到前半句的原因从句。句⑱的「のです」在此是强调；从前后文判断，句⑳的「のです」也是强调，作者由句⑱的「しかし」开始阐述：“为什么不应该怨恨人生的苦难”，“我们应该把苦难看作磨炼灵魂的考验和机会”。译者在翻译这两句时根据上下文表意焦点做出了较为妥善的处理，译为：“但正是这些苦难才能磨炼我们的灵魂，提升我们的人格。”“把苦难看作考验、看作机会，我们需要这样来思考问题”。再反过来把这句译文译为日语是「しかしそのような苦しき世だからこそ、その苦は魂を磨くことができ、人間性を高めることができますのです」「その労苦を試練だと考え、チャンスだとこのように考える必要があるのです」¹⁶⁾。句⑳的「のです」是作者对自己观点的强调，译者在译文中把前一句具有主张表意力度的「考える必要がある」移动到句⑳的译文中翻译为：“我们需要……”，同时添加了指示代词“这样”，有效再现了「のです」的强调作用。由此，我们不难看出，对「のだ」在文章中具体表意作用的解释已经超出句法的范畴，需要根据前后文以及文章整体作出判断。原文第六处出现「のです」的句子是第十段的句㉑「試練を「機会」としてとらえることができる人——そういう人こそ、限られた人生をほんとうに自分のものとして生きていけるのです」。根据上下文可以判定这句中的「のです」也是强调的作用，对句⑱的「試練」和句⑳的「チャンス」的反指，进一步强调叙述了「魂を磨く」对人生的意义，从而链接最后一段的结论性总结。日语原文前半句使用了提示助词「こそ」，这个词虽然有各种译法，但它带有焦点提示性，同时考虑到句尾的「のです」，笔者认为译者将其译为“只有……才……”是极为妥当的处理。下面举例分析第二篇文章。

文章例 2

「人生の真理は懸命に働くことで体得できる」

①①それでは、人格を練り、魂を磨くには具体的にどうすればいいのでしょうか。②山にこもったり、滝に打たれたりなどの何か特別な修行が必要なのでしょうか。③そんなことはありません。④むしろ、この俗なる世界で日々懸命に働くことが何よりも大事なのです。

②⑤後の章で詳しく解説しますが、お釈迦さまは、悟りの境地に達する修行法の一つとして、「精進」することの大切さを説いています。⑥精進とは、一生懸命働くこと、目の前の仕事に脇目もふらず打ち込むことです。⑦私は、それが私たちの心を高め、人格を錬磨するためにもっとも大事で、一番有効な方法であると考えています。

③⑧一般によく見受けられる考え方は、労働とは生活するための糧、報酬を得るための手段であり、なるべく労働時間は短く給料は多くをもらい、あとは自分の趣味や余暇に生きる。⑨それが豊かな人生だというもの。⑩そのような人生観をもっている人のなかには、労働を

あたかも必要悪のように訴える人もいます。

④⑪しかし働くということは人間にとって、もっと深遠かつ崇高で、大きな価値と意味をもった行為です。⑫労働には、欲望に打ち勝ち、心を磨き、人間性をつくっていくという効果がある。⑬単に生きる糧を得るという目的だけではなく、そのような副次的な機能があるのです。

⑤⑭ですから、日々の仕事を精魂込めて一生懸命に行っていくことがもっとも大切で、それこそが、魂を磨き、心を高めるための尊い「修行」となるのです。

⑥⑮たとえば、二宮尊徳は生まれも育ちも貧しく、学問もない一介の農民でありながら、鋤一本、鍬一本を手に、朝は暗いうちから夜は天に星をいただくまで田畑に出て、ひたすら誠実、懸命に農作業に努め、働きつづけました。⑯そして、ただそれだけのことによって、疲弊した農村を、次々と豊かな村に変えていくという偉業を成し遂げました。

⑦⑰その業績によってやがて徳川幕府に登用され、並み居る諸侯に交じって殿中へ招かれるまでになりますが、そのときの立ち居振る舞いは一片の作法も習ったわけではなくにもかかわらず、真の貴人のごとく威厳に満ちて、神色さえ漂っていたといえます。

⑧⑱つまり汗にまみれ、泥にまみれて働きつづけた「田畑での精進」が、自身も意識しないうちに、おのずと彼の内面を深く耕し、人格を陶冶し、心を研磨して、魂を高い次元へと練り上げていったのです。

⑨⑲このように、一つのことに打ち込んできた人、一生懸命に働きつづけてきた人というのは、その日々の精進を通じて、おのずと魂が磨かれていき、厚みある人格を形成していくものです。

⑩⑳働くという営みの尊さは、そこにあります。㉑心を磨くというと宗教的な修行などを連想するかもしれませんが、仕事を心から好きになり、一生懸命精魂込めて働く、それだけでいいのです。

⑪㉒ラテン語に、「仕事の完成よりも、仕事をする人の完成」という言葉があるそうですが、その人格の完成もまた仕事を通じてなされるものです。㉓いわば、哲学は懸命の汗から生じ、心は日々の労働の中で錬磨されるのです。

⑫㉔自分がなすべき仕事に没頭し、工夫をこらし、努力を重ねていく。㉕それは与えられた今日という一日、いまという一瞬を大切に生きることにつながります。

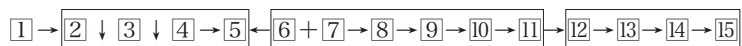
⑬㉖一日一日を「ど真剣」に生きなくてはならない、と私はよく社員にもいっていますが、一度きりの人生をムダにすることなく、「ど」がつくほど真摯に、真剣に生き抜いていく——そのような愚直なまでの生き様を継続することは、平凡な人間をもやがては非凡な人物へと変貌させるのです。

⑭㉗世の「名人」と呼ばれる、それぞれの分野の頂点を極めた達人たちも、おそらくそのような道程をたどったにちがいません。㉘労働とは、経済的価値を生み出すのみならず、ま

さに人間としての価値をも高めてくれるものであるといってもいいでしょう。

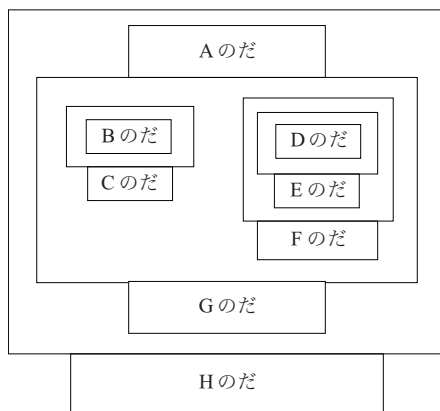
⑮⑲したがって何も俗世を離れなくても、仕事の現場が一番の精神修養の場であり、働くことと自体がすなわち修行なのです。⑳日々の仕事にしっかりと励むことによって、高邁な人格とともに、すばらしい人生を手に入れることができるということを、ぜひ心にとめていただきたいと思います。

段落与段落的关系如下图所示。



这篇文章可分为四个大段落，第一个是句①到句④，即第一自然段，是文章的结论，其大意是「魂を磨くには日々懸命に働くことが最も大切だ」。第二个段落是句⑤至句⑭，即第二、第三、第四、第五自然段，讲的是理由，大意是「労働には欲望に打ち勝ち心を磨く効果がある。日々、一生懸命働くことは、心を高めるための修行である」。第三个段落是句⑮至句⑲，即自然段落六、七、八、九、十和十一，是通过具体例子进一步说明，其大意是「例えば、二宮尊徳のように一生懸命に働きつづけてきた人は、おのずと魂が磨かれ、厚みある人格を形成していく」。第四个段落是句⑳至句㉓，是结论，其大意是「日々の仕事に励むことで、すばらしい人生を手に入れることができる」。我们再用汉语来逐段明确各自然段的表意中心；第一段是文章的论题提示以及解答，第二段是“所谓释迦的‘精进’就是拼命工作”，第三段是“劳动是苦差事”，第四段是“劳动的意义”，第五段是“工作就是修行，磨炼灵魂”，第六段和第七段是举例，第八段是对例子的说明，第九段和第十段是“劳动的价值”，第十一段是通过具体例子作出的“人生哲学来源于工作，工作磨练精神”的总结，第十二段开始导入结论，阐述“努力工作的意义”，第十三段是“极度认真的工作态度”，第十四段是“劳动价值”，第十五段是整篇文章的总结“工作磨练意志，是最好的修行，提高人格”。该篇文章中八处出现了「のです」：句④的「むしろ、この俗なる世界で日々懸命に働くことが何よりも大事なのです」，句⑬「単に生きる糧を得るという目的だけではなく、そのような副次的な機能があるのです」，句⑭「ですから、日々の仕事を精魂込めて一生懸命に行っていくことがもともと大切で、それこそが、魂を磨き、心を高めるための尊い「修行」となるのです」，句⑱「つまり汗にまみれ、泥にまみれて働きつづけた「田畑での精進」が、自身も意識しないうちに、おのずと彼の内面を深く耕し、人格を陶冶し、心を研磨して、魂を高い次元へと練り上げていったのです」，句㉒「心を磨くという宗教的な修行などを連想するかもしれませんが、仕事を心から好きになり、一生懸命精魂込めて働く、それだけでいいのです」，句㉓「いわば、哲学は懸命の汗から生じ、心は日々の労働の中で錬磨されるのです」，句㉔「一日一日を「ど真剣」に生きなくてはならない、と私はよく社員にもいっていますが、一度きり

の人生をムダにすることなく、「ど」がつくほど真摯に、真剣に生き抜いていく——そのような愚直なまでの生き様を継続することは、平凡な人間をもやがては非凡な人物へと変貌させるのです」, 句⑳「したがって何も俗世を離れなくても、仕事の現場が一番の精神修養の場であり、働くこと自体がすなわち修行なのです」。神田邦彦 (2015) 讲解「のだ」句在日语现代文中的作用时, 使用了“俄罗斯套娃构造”(「マトリョーシカ構造」)式分析方法, 对各个「のだ」句的统括作用进行了分析。其分析视点与永野贤语法文章中的“统括论”主张类同, 笔者借鉴神田先生的图表分析法对本文中「のだ」句的统括作用分析如下¹⁷⁾。



下面结合上下文和整个文脉逐句分析各「のです」句的汉语译文。句④译为：“在这世俗的社会里，天天勤奋劳作就足够了”。译者在译文中添加了副词“就”，加强了整句的强调表意。句①和句②是文章的论题提示，句③和句④是解答，一般把句④的「のだ」用法视为“说明”，但因为句④的句首使用了「むしろ」，与句尾的「のです」呼应，加强了该句的表意强势，所以译文中添加的表强调的副词“就”的处理十分恰当。句③的译文是：“劳动不仅是为了生存、为了温饱，它还陶冶人的情操”。把译文再译成日语是「労働は単なる生きるため、糧を得るという目的だけではなく、労働は人の情操を薰育することにもなります」，译者对原文的「生きる糧を得る」的部分作了分译处理，将其分为两个部分「生きるため」「糧を得るため」，而且还将后半部分的「そのような副次的な機能」的具体所指内容「欲望に打ち勝ち、心を磨き、人間性をつくっていくという効果」在译文中明确化，译为“它还陶冶人的情操”(「労働は人の情操を薰育することにもなります」)，突出了原文表意重点；与此同时，译文中的“不仅……还……”的使用更突出了原文的表意重点。由此也可以明确，中文表意焦点的突出手法并不是单一的，是全方位的。原文句④的译文是：“聚精会神、孜孜不倦，全身心投入每一天的工作，这就是最尊贵的‘修行’，就能磨炼灵魂、提升思想境界”，译文中的“这就是最尊贵的‘修行’，就能磨炼灵魂、提升思想境界”部分值得关注，反过来将其译为日语

是「これこそが尊い修行であり、魂を磨くことも心を高めることもできるのです」，这一译法使原文「のです」的统括范围更加明确。译文中表强调的副词“就”的重复使用也再现了「のです」的表意。句⑱的译文是：“这说明，沾满汗水和泥土、辛勤劳作的‘田间的精进’在不知不觉中耕耘了他的心田，陶冶了他的人格，磨炼了他的意志，将他的灵魂提升到了崇高的境界”，这句译文基本上是直译。原文中的「のです」与「つまり」相呼应，无疑是表示“说明”的「のです」。原文的「つまり」后面没有使用停顿的标点符号，但是中文译文在“这说明”之后不仅使用了标点符号，而且将「つまり」译为主语的“这”加谓语的“说明”，使其后的“沾满汗水和泥土、辛勤劳作的‘田间的精进’在不知不觉中耕耘了他的心田，陶冶了他的人格，磨炼了他的意志，将他的灵魂提升到了崇高的境界”这一部分成为整个句子的宾语，准确妥善再现了原句的表意，也衬托出原文「のです」的“说明”作用。由此可以确认，「のだ」的译文并不仅仅是一个词或者一个短语，以及前后句的协调，「のだ」的翻译手法是多种多样的。句⑳原文中的「のです」是“强调”的作用，中文译文是：“讲到磨炼心志，大家可能联想到宗教的修行，但是热爱自己的工作，全身心投入，只要做到这一点，就可以达到修行的目的”。我们将这句汉语译文反过来译成日语进一步观察，「心を磨くというと宗教的な修行などを連想するかもしれませんが、しかし、仕事を心から好きになり、一生懸命精魂込めて働く、それさえできれば、修行の目的を果たすことができるのです」，划线部分表示加译或者意译，以下类同。原文中的「のです」强调的是「それだけでいい」，汉语译文中将所强调部分的指示代词「それ」不是直译为“这个”“那个”，而是译为表达更具体意思的焦点“这一点”，把抽象的「いい」更具体化，译为“可以达到修行的目的”，同时加上了“只要……就……”（「～でさえすれば～」），不仅更有效地再现了原文的「だけ」，而且与其他语句一同衬托出了「のだ」的强调作用。句㉑原文的「のです」是对自然段第六至第十一段的归纳总结，中文译文是：“就是说，正确的人生哲学只有在拼命工作中、在汗水中才能产生，人的精神只有在日常的、不懈的劳动中才能得到磨炼”。将译文再译成日语是，「いわば、正しい人生哲学は一生懸命に労働することだけから得られ、汗だけから生み出すことができ、心は毎日の弛まぬ労働の中で鍛錬することができるのです」。译者在两个地方加译的“只有……才能……”（「～してこそはじめて～することができる」），有效地再现了原文「のだ」所要表达的“总结概括”之意。句㉒原文「のです」的作用是“强调”，强调的是后半部分的「ど」がつくほど真摯に、真剣に生き抜いていく——そのような愚直なまでの生き様を継続することは、平凡な人間をもやがては非凡な人物へと変貌させる」。这部分的汉语译文是：“认真的程度要达到‘极度’好像很‘傻’，但只要坚持这种态度，一个平凡的人就能脱胎换骨，变成一个非凡的人物”。反过来译成日语是，「どがつくほど真摯に、真剣に、愚直なまでに——ただしこのような生き様を継続さえすれば、平凡な人間でもやがては非凡な人物へと変貌させることができるのです」。译文中添加了“只要……就能……”（「～でさえすれば～すること

ができる」)、突出了原文中「のです」所要强调的部分。原文最后一个「のです」出现在句⑳, 其作用是“总结归纳”性的强调, 突出作者的观点。中文译文是: “不必脱离俗世, 工作现场就是最好的磨炼意志的地方, 工作本身就是最好的修行”, 译为日语是, 「何も俗世を離れなくても、仕事の現場がすなわち一番の精神修養の場であり、働くこと自体がすなわち一番の修行なのです」。译者使用了排比句“……就是最好的……, ……就是最好的……”, 在前面添加了与后面一样的「すなわち」, 在后面添加了与前面一样的「一番の」, 这种使用同一表现手法也是一种强调。对此, 汲传波先生曾在2015年出版的专著中有过详细的论述, 他指出: “相同语形的反复也带来‘强调’”¹⁸⁾。这再次证明, 「のだ」的汉语表意方法并不是单一的。下面举例分析第三篇文章。

文章例3

「心に描いたものが実現するという宇宙の法則」

①①このようによい心がけを忘れず、もてる能力を発揮し、つねに情熱を傾けていく。②それが人生に大きな果実をもたらす秘訣であり、人生を成功に導く王道なのです。③なぜなら、それは宇宙の法則に沿った生き方であるからです。

④④仏教には、「思念が業をつくる」という教えがあります。⑤業とはカルマともいい、現象を生み出す原因となるものです。⑥つまり思ったことが原因となり、その結果が現実となって表れてくる。⑦だから考える内容が大切で、その想念に悪いものを混ぜてはいけない、と説いているのです。⑧積極思考を説いた哲学者である中村天風さんも、同様の理由から「けっして悪い想念を描いてはいけない」といっています。

③③③人生は心に描いたとおりになる、強く思ったことが現象となって現れてくる——まずはこの「宇宙の法則」をしっかりと心に刻みつけてほしいのです。⑩人によっては、このような話をオカルトの類いと断じて受け入れないかもしれません。⑪しかし、これは私がこれまでの人生で数々の体験から確信するに至った絶対法則なのです。

④④④すなわち、よい思いを描く人にはよい人生が開けてくる。⑬悪い思いをもっていれば人生はうまくいかなくなる。⑭そのような法則がこの宇宙には働いているのです。⑮思ったことがすぐに結果に出るわけではないので、わかりづらいかもかもしれませんが、二十年や三十年といった長いスパンで見えていくと、たいていの人の人生は、その人自身が思い描いたとおりになっているものです。

⑤⑤⑤ですから、まずは純粹できれいな心をもつことが、人間としての生き方を考えるうえで大前提となります。⑯なぜなら、よい心——とくに「世のため、人のため」という思い——は、宇宙が本来もっている「意志」であると考えられるからです。

⑥⑥⑥宇宙には、すべてをよくしていこう、進化発展させていこうという力の流れが存在して

います。⑭それは、宇宙の意志といってもよいものです。⑮この宇宙の意志が生み出す流れにうまく乗れば、人生に成功と繁栄をもたらすことができる。⑯この流れからはずれてしまうと没落と衰退が待っているのです。

⑰⑱ですから、すべてに対して「よかれかし」という利他の心、愛の心をもち、努力を重ねていけば、宇宙の流れに乗って、すばらしい人生を送ることができる。⑲それに対して、人を恨んだり憎んだり、自分だけが得をしようといった私利私欲の心をもつと、人生はどんどん悪くなっていくのです。

⑳㉑宇宙を貫く意志は愛と誠と調和に満ちており、すべてのものに平等に働き、宇宙全体をよい方向に導き、成長発展させようとしている。㉒このことは、宇宙物理学でいう「ビッグバン・セオリー」から考えても十分納得、説明できるものです。

㉓㉔第5章で詳しく述べますので、ここではごく簡単な説明にとどめますが、宇宙には最初ひと握りの素粒子しか存在していませんでした。㉕その素粒子がビッグバンと呼ばれる大爆発によって結合して、原子核を構成する陽子、中性子、中間子をつくり上げ、電子と結びつき、最初の原子である水素原子を生み出した。

㉖㉗さらにさまざまな原子、そして分子が生まれ、やがて高分子ができ上がり、人類のような高等生物までが生み出された。㉘そういう宇宙の進化のありようを知れば知るほど、すべてを成長させ、進化させていこうという何か「偉大なもの」の意志が介在していると思えません。

㉙㉚私は長くモノづくりにかかわってきて、そのような「偉大なもの」の存在を実感することが少なくありませんでした。㉛その大きな叡智にふれ、それに導かれるようにして、さまざまな新製品の開発に成功し、人生を歩んできたといっても過言ではないのです。

㉜㉝京セラが手がけるセラミックスはファインセラミックスと呼ばれ、コンピュータや携帯電話などさまざまなハイテク商品に汎用される高度な素材です。㉞このファインセラミックスに関する技術は京セラが世界にさきがけて開発を進め、次々に新しい地平を開いてきたと自負していますが、もともと私はセラミックスの門外漢でした。㉟学生時代は石油化学などの有機化学を専攻していたのですが、就職が思うようにならず、不本意ながら、京都にあった無機化学の碍子製造会社に入ったのです。

㊱㊲ですから、セラミックスに関する基礎的な知識や技術などなかったうえ、その会社も赤字を続けており、粗末な研究設備や装置しかありませんでした。㊳そのため、とにかく毎日現場へ出て、工夫を重ねつつ研究や実験に打ち込むより他に道がなかったのです。

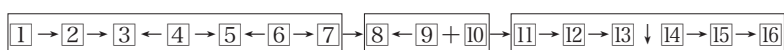
㊴㊵ところが、そんな状況の中、私はわずかな期間で、新しい材料をつくることに成功してしまったのです。

㊶㊷それは、アメリカのGE（ゼネラル・エレクトリック）の研究所が、その一年ほど前に

世界で初めて合成に成功したという新素材で、しかも、私が合成に成功したものはまったく同じ組成でありながら、その合成方法はGEと全然異なるものでした。⑳つまり私の方法論は世界に類のないまったくオリジナルなものだったのです。

㉑精密な設備を使って理論的な実験を重ねたわけではありません。㉒京都のちっぽけな電子メーカーの、名もない一研究員が、徒手空拳のまま行ったことが、世界のGEに匹敵する成果をあげた——まぐれ当たりとしかいいようのない幸運なりゆきでしたが、しかし不思議なことに、そうした幸運はその後もずっと続き、その会社を退社して京セラを設立してからも、私と私の会社をどんどん成長させていったのです。

段落与段落间的连接关系如下图所示。



这篇文章共有十六个自然段，根据文章表意可以划分为三大段落。第一个是自然段落一至七，即句①至句⑦；句①和②是结论，讲的是「よい心がけを忘れず、情熱を傾けていくことが人生を成功に導く王道である」，句③是理由「それは宇宙の法則に沿った生き方だからだ」，句④至句⑦是具体例子，大意是「強く思ったことが現象となるのが「宇宙の法則」である。宇宙には、すべてを進化発展させていこうという力の流れが存在し、この宇宙の意志が生み出す流れに乗れば、人生に成功と繁栄をもたらす」，句⑧至句⑦是结论「愛の心を持ち、努力を重ねていけば、宇宙の流れに乗って、素晴らしい人生を送ることができる」。第二大段是自然段八、九、十；句⑧是结论「宇宙を貫く意志は愛と誠と調和に満ちており、宇宙全体を成長発展させようとしている」，句⑨是理由「これは「ビッグバン・セオリー」から説明できる」，句⑩和⑪是具体例子「宇宙ではビッグバンにより素粒子から様々な高分子が生まれ、人類など高等生物も生まれた」，句⑫是结论「宇宙の進化を知れば、宇宙の進化には偉大な意志があると思えてくる」。第三大段是自然段十一至十六；句⑬是结论「私も経験から、そうした偉大な意志を実感してきた」，句⑭是理由「なぜなら、私は大きな叡智に導かれるようにして、さまざまな新製品の開発に成功したからだ」，句⑮至句⑰是具体例子「私はファインセラミックスの開発に成功したが、それは工夫を重ねたうえでの幸運が導いたものだった」，这篇文章与前两篇不一样，内容是与下一篇文章连贯在一起的，在最后一句没有出现结论性的总结。

我们根据上下文表意逐句分析原文中十三处出现的「のです」。第一个「のです」出现在句②，原文是「それが人生に大きな果実をもたらす秘訣であり、人生を成功に導く王道なのです」，汉语译文是：“这就是人生获得巨大成果的秘诀，就是人生成功的王道”。译文中的“就是……就是……”的重复使用以及表强调的副词“就”的使用准确再现了「のです」的强势表

意。第二个出现在句⑦「だから考える内容が大切で、その想念に悪いものを混ぜてはいけない、と説いているのです」、中文译文分成了两句：“所以，你心中想什么，你思考的内容，非常重要。佛教就是教导人们思想中不可掺杂邪念”。将这句译文翻译成日语是，「だから心で考えている内容は非常に重要です。仏教では人々に想念に悪いものを混ぜてはいけない、と説いているのです」。该句中「のです」的作用是强调作者所要说明的内容，译者将其分为两句翻译，并结合上文添加了主语“佛教”，使整个句子的作者观点表意更加清晰，同时在动词“教导”之前还使用了带有特别强调的“就是”，准确有效地再现了原文的强调语气。第三处出现「のです」在句⑨「人生は心に描いたとおりになる、強く思ったことが現象となって現れてくる——まずはこの「宇宙の法則」をしっかりと心に刻みつけてほしいのです」，这里的「のです」主要是强调表明作者的愿望和恳求，该句译文是：“你心中描画怎样的蓝图，决定了你将度过怎样的人生。强烈的意念，将作为现象显现—请你首先铭记这个‘宇宙的法则’”。译者并没有将原文的「～してほしい」译为与其相对应的常见译文“希望……”，而是译为更带强势语气的“请你……”（「～してください」），有效再现了原文的强势恳求语气，妥善处理了「のだ」的表意。这说明，准确处理日语「のだ」表意除了添加表强调的词语以外，还有类似这种利用中文丰富词语表现的特点对词汇表意进行推敲的手法。第四处出现「のです」在句⑩「しかし、これは私がこれまでの人生で数々の体験から確信するに至った絶対法則なのです」，这里的「のです」与表转折的「しかし」呼应，强调的核心部分是「絶対法則」「確信するに至った絶対法則」。译者作了十分恰当的处理，突出了应该强调的核心部分，译为：“然而，这是从我至今为止的、各种各样的切身体验中产生的、让我确信的绝对的法则”，把重点强调的部分「確信するに至った絶対法則」独立出来，译为包含「のです」强势语气的“让我确信的绝对的法则”（「わたしが確信させられた絶対的な法則」）。原文第五处出现「のです」是在句⑭「そのような法則がこの宇宙には働いているのです」，译为：“这条法则在宇宙中发挥着它的作用”。译文中的“它的”当然是反指主语的“这条法则”，添加上“它的”这两个字语气要更强；句⑫与句⑬是对比的关系，句⑫和⑬合在一起展开了句⑭的叙述，句⑮是对句⑭的补充说明，所以这段中的句⑭是该段的叙述中心，是我们翻译时不容忽视的重点句。第六处出现「のです」是在句⑰「この流れからはずれてしまうと没落と衰退が待っているのです」。在翻译这句时也要考虑与前一句的关系，二者是对比的关系，作者是由句⑰引出与此相反的句⑱，强调的并不是句⑰的「成功と繁栄」，而是句⑱的「没落と衰退」，所以在句⑱的句尾使用了「のです」。译者在句⑱的译文中添加了原文没有的「きっと、間違いなく」意思的形容词“必然”，准确再现了「のです」的强调语气。原文第七处出现的「のです」是句⑲「それに対して、人を恨んだり憎んだり、自分だけが得をしようといった私利私欲の心をもつと、人生はどんどん悪くなっていくのです」，这句与前面句⑰和⑱关系相似，作者强调的是两句对比关系的句⑲。译者译为：“相反，憎恨、嫉妒他人，只想自己占便宜，充满利己之心的人，他们

的人生将越发糟糕”。我们可以观察到，译者不仅添译了“他们”和“将”，而且把原文的「どんどん悪くなっていくのです」不是简单的直译为“变得越来越不好”，而是加重语气，译为“越发糟糕”，在词语选择上再现了原文的强势语气。第八处出现的「のです」是句③「その大きな叡智にふれ、それに導かれるようにして、さまざまな新製品の開発に成功し、人生を歩んできたといっても過言ではないのです」，译者将「のです」的强调核心「～といっても過言ではないのです」单独出一句，译为“这么讲一点也不夸张”（「このようにいっても過言ではないのです」）。与此同时，把前部分的「その大きな叡智にふれ、それに導かれるようにして、さまざまな新製品の開発に成功し、人生を歩んできた」放到前一句的句⑩里翻译，突出了「のです」的强调焦点：“我长期从事产品的开发制造，在这过程中，我常常切实地感觉到这种‘伟大人物’的存在，接触到它莫大的睿智，依靠它的指引，我才开发成功了各式各样的新产品，才在人生道路上顺利地走到今天。这么讲一点也不夸张”。原文第九处出现的「のです」是句④「学生時代は石油化学などの有機化学を専攻していたのですが、就職が思うようにいかず、不本意ながら、京都にあった無機化学の碍子製造会社に入ったのです」。这句与前一句③的关系是补充说明，句③结尾部分的「～もともと私はセラミックスの門外漢でした」与句④前半部分的「学生時代は石油化学などの有機化学を専攻していたのですが、～」是同一个意思层次，译者将这两个部分处理在同一个句子里翻译，使句④「のです」的强调焦点部分「不本意ながら、京都にあった無機化学の碍子製造会社に入った」更加突出，单独出一句话，译为：“因为就职无门，才不得不进了京都一家制造属于无机化学的绝缘瓷瓶的企业”。译文中使用了“因为……才……”，进一步突出了后半句的强调说明焦点。原文第十处出现的「のです」是句⑤「そのため、とにかく毎日現場へ出て、工夫を重ねつつ研究や実験に打ち込むより他に道がなかったのです」，译为：“我只好天天进到现场，专心研究进行各种实验”。这句「のです」的表意是说明，没有观点主张的「のです」那么强势，类似这类句子可以不用刻意的一定要单独翻译出「のです」，按照永野贤先生的解释，这里的「～なかったのです」是着重说明强调过去发生的某一件事情。原文第十一处出现的「のです」是句⑥「ところが、そんな状況の中、私はわずかな期間で、新しい材料をつくることに成功してしまったのです」，这句中「のです」是强调说明，译为：“然而就是在这种情况下，没有多久，我居然开发出了一种全新的材料”，再将其译成日语是「ところが、まさにそういう状況の下、私はほどなくして、なんと全く新しい材料を開発したのです」。译者添加了表强调的“就”和“居然”，衬托出原文的强调语气。原文第十二处出现的「のです」是句⑦「つまり私の方法論は世界に類のないまったくオリジナルなものだったのです」，这句的「のです」也是说明表意的强调，译者译为：“就是说我的合成方法也是世界独创的”，添加了表强调的“也”。原文第十三处出现的「のです」是句⑧，该句中的「のです」也是说明表意的强调，按照永野贤的理论划分，句⑧与句⑨的关系是反对型的关系。译者做了断句分译的处理，一部分放到前一句中，其他部

分分成两句翻译，译为：“但是，令人不可思议的是，这样的幸运后来竟然接二连三。我离开这家企业创建京瓷后，这种幸运让我和我的公司获得了快速的发展”。值得关注的是“这种幸运”的反复再现，对整个句子强调说明起了辅助作用。

3 小结

以上通过对文章整体脉络的立体观察以及汉语译文的宏观分析，再次证实对「のだ」表意功能的研究已经超出了词汇学、语法学的范畴，需要结合文章学、修辞学的观点综合分析。文章中的大部分「のだ」都是有因有果的：因为前面叙述的内容，所以作者使用了「のだ」；因为后面叙述的内容，所以作者又使用了「のだ」；因为整篇文章的文脉，所以作者再度使用了「のだ」。「のだ」在文中并不是偶然的语言表现，而是“事出有因”的必然归结，它涉及到复数句子、段落乃至整篇文章。因此在翻译「のだ」时，仅局限于考虑某一句中「のだ」的表意显然是不全面的，有时会误以为「のだ」没有再现于汉语译文只是简单的丢弃，或者是没有与其相对应的汉语表达。但实际情形并非如此，汉语译文中对「のだ」的有形再现，如利用前后文其他语言的表现力度，或通过对关联词语表意强弱的调整，都可以有效再现日语「のだ」的表意作用。语法文章学作为一种高屋建瓴、总体把握的语言学理论体系，其取精用宏、由点及面的观点为我们如何将日语「のだ」在文中所发挥的机能，准确再现于汉语译文，提供了诸多有意义的启示。

注

- 1) 大河内康憲1975：21-39。
- 2) 王亜新1997：195-212。
- 3) 杉村博文1980：75-89。
- 4) 杉村博文1982：155-172。
- 5) 井上優2003：264-274。
- 6) 劉洋2012：13-24。
- 7) 新田小雨子2013：125。
- 8) 新田小雨子2013：128。
- 9) 庵功雄2021：55-71。
- 10) 俵山雄司2014：92-93。
- 11) 白川博之曾在「独立性の高いテ形・連用形について」(『広島大学教育学部紀要』第2部，第38号)中指出永野没有考虑「のだ」除「补充型」以外的用法。但实际并非如此，具体可参照永野在第109页分析文章例③中的有关论述。
- 12) 永野賢1986.『文章論総説』，朝倉書店。253頁。原文：「「のだ」の類は、文脈・脈絡により、

- 「説明・強調・確認・回想・詠嘆・しめくり」など、さまざまな意味用法がある」。
- 13) 原文使用的是“○”，笔者为了便于说明改为数字。
 - 14) 文章例 1 选自原著第014-017页，中文译本第005-006；文章例 2 选自原著第021-024页，中文译本第010-012；文章例 3 选自原著第027-031页；中文译本第016-019。
 - 15) 各文章例中的段落编号以及各句编号均为笔者加注，各文章例中的划线部分也均为笔者加注。
 - 16) 参照日语原文直译。
 - 17) 句④⑬⑭⑱㉑⑳㉔㉕㉖㉗分别称为 A, B, C, D, E, F, G, H。
 - 18) 汲传波 2015: 177。

参考文献

- 永野賢 1986. 『文章論総説』, 朝倉書店。
- 朝倉かおり 2008. 「「のだ」に関する先行研究」, 愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会紀要『言語コミュニケーション研究』第 8 号, 1-10 頁。
- 名嶋義直 2008. 「ノダの意味・機能再考—その文法論的意味と語用論的意味—」, 第 15 回中日理論言語学研究会。
- 劉洋 2012. 「論述文における“(是)……的”構文と「ノダ」文の機能」, 『一橋日本語教育研究』Vol. 01, 13-24 頁。
- 新田小雨子 2013. 『因果関係を表す接続表現の日中対照研究』, 駿河台出版社。
- 庵功雄 2013. 「「のだ」の教え方に関する一試案」, 一橋大学語学研究室紀要『言語文化』Vol. 50。
- 依山雄司 2014. 「日本語の談話終結表現の研究」, 博士学位論文。筑波大学。
- 范碧琳 2015. 「文末の「のだ」の意味に関する認知言語学的・語用論的研究—文末の「ものだ」との対照を中心に—」, 博士学位論文。九州大学。
- 神田邦彦 2015. 『標準問題精講』, 旺文社。
- 石出靖雄 2016. 「「のだ」文の研究—「のだ」文の主題から考える—」, 明治大学教養論集 通巻 514 号。
- 鄭高咏 2020. 「三好达治「大阿苏」汉译评鹭」, 愛知大学紀要『言語と文化』第 42 号, 115 頁。
- 戴宝玉 2020. 『日本語教育における「のだ」の研究』, ひつじ書房。
- 庵功雄 2021. 「基本文型としての「のだ」文」, 一橋大学語学研究室紀要『言語文化』Vol. 58。
- 汲传波 2015. 《强调范畴及其若干句法研究》, 北京大学出版社。

調査資料対象

- 原著(日): 稻盛和夫 2004. 『生き方』東京: 株式会社サンマーク出版。05-79 頁。
- 译本(中): 稻盛和夫 著; 曹岫云 译 2013. 《活法》北京: 东方出版社出版。03-62 頁。